

2020年の話題沸騰 “バード”

2020年1月～12月の間に観察され、話題を呼んだ野鳥を振り返ってみたいと思います。いずれも、毎年出会えるとは限らない珍しい鳥たちです。

『ひとまちみどり由木』が管理する81ヶ所の公園には、多様な動植物が暮らしています。このコーナーでは、管理作業や巡回の折に出会った動植物について、その際に撮影した写真とともに紹介していきます。



サンコウチョウ
(カササギヒタキ科)

5月28日、長池公園では珍しいサンコウチョウが観察されました。キアシドクガなどを空中で盛んに捕らえていました。他の夏鳥よりも1ヶ月ほど渡来が遅く、繁殖地へ向かう前の一時的滞在に出会えて幸運でした。



オオムシクイ (ムシクイ科)

6月3日、長池公園自然館のすぐそばで“ジジロジジロ”と特徴的なさえずりが聞こえてきました。非常に珍しい渡り鳥のオオムシクイです。この仲間は、鳴き声が種を判別する大事な手がかりとなります。

クロジ (ホオジロ科)

1月26日、向山緑地でクロジの小群を観察しました。薄暗い林を好む、可愛い冬鳥です。繁殖地での減少が著しいようなので、この辺りでもいつかは見られなくなってしまうかもしれません。



クロツグミ (ヒタキ科)

11月19日、長池公園で作業中のスタッフがクロツグミを発見しました。園内では実に14年ぶりの記録となる稀な夏鳥です。近年、市内の低山地でも繁殖が確認されるようになったことも影響しているかもしれません。



トモエガモ (カモ科)

長池公園では、昨年に初めて記録されたばかりのトモエガモ。今シーズンも再び築池で観察され、話題となりました。11月26日に9羽の群れが飛来し、12月現在も仲むつまじい雄と雌のペアが居残っています。

リュウキュウサンショウクイ
(サンショウクイ科)

10月27日、東中野公園でリュウキュウサンショウクイ(サンショウクイの南方系亜種)を見つけました。近年、関東でも冬場にたびたび観察されるようになり、今後の動向が注目される野鳥です。

